

# 峠の向こうは春

## 昼はボランティア、夜は受験勉強

今から28年前、1995年1月17日早朝、兵庫県阪神淡路地方を大きな地震が襲いました。みなさんもいろいろな形で聞いたことがあると思います。その当時、西宮市で中学校の先生をされていた小川嘉憲先生の著書から、当時の中学校3年生の様子を紹介したいと思います。

このように記されています。

「阪神・淡路大震災のなかで、私たちは、『わが家』と『わが街』を壊され、愛する人たちをはじめ、たくさんの尊い命を失いました。その私たちに、復興に立ち上がる勇気を与えてくれたのは、子どもや青年たちの姿でした。私の中学校には、1000人近い被災者の方々が避難していました。学校もたいへんでしたが、子どもたちの家もたいへんです。家は壊れ、家具は散乱し、ガスも水道も出ません。飢えと寒さをしのいで生きることがこんなにもたいへんなことか、と実感しました。そんななかで子どもたちは、壊れた家の後片付けや修理、家具の持ち出し、屋根のシート張り、水くみ、買い出しなど、実によく働きました。そして少し時間のある子は、避難所になっている小・中学校などに救援ボランティアとして参加しました。(中略)

卒業生がよく中学校を訪れます。高校生活の報告や就職・進学相談など、職員室でかつての担任の先生と語って帰ります。そんなとき、『中学時代で一番よく勉強したのはいつごろかなあ』と聞くと、ほとんどの卒業生が『3年生の1月から2月だった』と言います。志望校が決まっていよいよ高校入試に向けてがんばる、という時期なのです。阪神・淡路大震災の年の受験生は、このいちばん勉強するという時期に、住む家もなく、ガスも水道もないなかでの生活を強いられたのです。『勉強どころではない』というなかで、受験勉強をしなければならなかったのです。」

「部活動で活躍した忠夫君も、ある私立高校と地元の公立高校とを併願するつもりで、冬休み返上で頑張っていました。ところが、あの震災によって自宅が倒壊して、中学校に避難することになってしまいました。彼は震災の日から、中学校で救援ボランティア活動に参加していました。早朝の朝食の配布からトイレ用の水運び、救援物資の運搬と整理など、休む暇もない

ほどの仕事を一生懸命やっていました。彼は、教室に寝泊まりしていました。昼間は、救援ボランティアに取り組み、夜は勉強するという毎日でした。同室の避難者の睡眠の妨げになるので、灯りはいつまでもつけておれませんでした。彼らは火の気のない別の教室で、寒さにふるえながら受験勉強していました。ある日、『受験前のこんなとき、無理してボランティアをしなくていいよ。受験勉強やったらいいのに』と同じ避難所のおばさんに言われたそうです。彼は、『無理してやってないっ』と憤慨していました。彼はおばさんに、『おれは、(被災者の)こんな状態をほっといて勉強だけやとられへん。受験のことも気になるけど、おれは両方やる。』と言ったそうです。『おれは無理してボランティアしてるのとちがう。ボランティアやってると、なんか気分が盛り上がるんや。その方が勉強に身が入るんや』と語っていました。忠夫君だけではなくて多くの三年生が、水くみなど家庭の仕事から救援ボランティアまで、『昼間は働いて、夜は勉強する』という生活をしていました。

しばらくして、学校では、彼らのために図書室を開放しました。何人かの生徒が夜遅くまで勉強していました。『昼間、ボランティアをやって気分が盛り上がり、夜の勉強に身が入る』という言葉に、私は深く考えさせられました。

受験前はできるだけ余計なことをさせない、また考えさせないで、勉強に集中する環境をつくってやるのが、親や教師の責務みたいに考えてきました。忠夫君たちのようすを見ると、どうもそうとは言いきれないようです。同じ三年生の勝也君は、震災のあとすぐにお母さんの実家である岡山県に疎開しました。向こうでは何もすることがなくて、勉強だけしていたらよかったのに、西宮のことが気になって、受験勉強が手につかなかったそうです。ライフラインが復旧して西宮に帰ってきました。そして、半壊した家の修理などをやり、友だちと避難所に行ったりしました。そうするなかで、公立高校めざして受験勉強に励む気になったそうです。『自分の働きがみんなの役に立っている』『充実した生活がある』、そんなことを実感しているときに、受験勉強も気力がみなぎって集中して取り組めるようです。」

みなさんは、これを読んでどう思ったでしょうか？この文章の最後にある『自分の働きがみんなの役に立っている』『充実した生活がある』、そんなことを実感しているときに、受験勉強も気力がみなぎって集中して取り組めるようです。という言葉で締めくくられていますが、人ってそういうもの、人間らしさってそういうものだと思います。人のために何かしようとする人は、自分のことも頑張れます。自分中心にしか考えられない人は、他人のことは自分には関係のないことあるいは余計なこととってしまうのでしょうか。

誤解を恐れずに言うならば、いくら勉強ができて、いくらスポーツが優秀であっても、自分の気分感情でしか考えられないのはどうかと思います。クラスの仲間と一緒に頑張ること、他人のために頑張ることって、とても大切なこと、気持ちの良いこと、素敵なことだと考えられるのなら、みなさんのこれからの中学校生活や受験勉強への向かい方は、とてもすばらしいことになると思います。